

一人一人の良さを活かしながら、大きな力を発揮できる組織に

トップの素顔

vol.

1

福井テレビジョン放送株
代表取締役会長

光野 みつの
稔 みのる 氏



【プロフィール】

昭和22年敦賀市生まれ。早稲田大学教育学部卒業。昭和45年福井テレビジョン放送株に入社。報道部長、事業局長、取締役総務局長などを歴任。平成17年代表取締役社長、平成29年代表取締役会長に就任。福井商工会議所常議員、組織強化・運営委員長の他、福井県経営者協会会長や、(公財)歴史のみえるまちづくり協会理事長など多くの公職を務める。

【会社概要】

設立：昭和44年1月29日 所在地：福井市問屋町3-410
電話：0776-21-2233 従業員：99名

話して伝えることのやりがい

今月から新企画として、普段、垣間見ることが出来ない福井商工会議所の議員の横顔を「トップの素顔」と題してご紹介します。第1回は福井テレビジョン放送株の光野稔会長にお話しをお伺いしました。

昭和22年、敦賀市の粟野地区に生まれ、中学から高校にかけて、地域のフットボールのコーチや、子供会の世話役を担う活発な少年時代を過ごした。近隣の先生から「教職の道に進んではどうか」との誘いを受けて早稲田大学教育学部に進学。県内出身学生が住まう「講正学舎」に入寮し、同郷の学友達と親交を深めた。夏や春の長期休みには地元に戻り、スポーツに加えて英語教室の講師役も務め、「話して伝える」ことに大きなやりがいを感じた。当時はテレビが一般家庭に普及し始めた頃で、学年が進むにつれて新しいメディアであるテレビや報道への想いが少しずつ募っていった。その頃の福



今年開局55周年を迎えた福井テレビジョン放送

井県内では、NHKと福井放送（FBC）がテレビ放送を開始しており、福井テレビジョン放送（f t b）の開局準備が進められていた。昭和44年、4年生の夏休みで帰省した際に、新聞に掲載されたf t bの開局（44年10月）を告げる求人広告を見つけ、テレビ局勤務の夢が一気に膨らみ迷わず応募。見事採用の報を受け、45年4月に同社の新卒第一期生として入社。社会人生活がスタートした。

入社後は企画室に勤務し、同年8月には報道制作部門に転属。アナウンサー職に応募して念願の「話して伝える」仕事に就くことができた。ところが、未経験ゆえ、独特の発声・発音が、アクセントの習得に苦勞し、視聴者の

方からクレームを受けたこともあった。また、少数のスタッフで取材から、編集、原稿づくり、ニュース読みまでを担う必要があり、業務は多忙を極めた。ただ、慣れない業務も持前のバイタリティーで乗り越え、「今思えばあの経験が大きな財産になった」と振り返る光野さん。10年間にわたりアナウンサー業務を担当した。

その後、大阪支社副部長、敦賀支局長を経て、昭和61年に報道部長に就任。この任期中に忘れられない出来事が起こる。平成元年7月に越前町玉川で国道脇の岩盤が崩落。走行中のマイクロバスを直撃して、15名が亡くなるという大惨事が起きた。

光野さんは一報を受けて、「27時間テレビ」の中継に向向っていた中継車を急遽、越前町の事故現場に向かわせさせた。一方で、偶然事故の様子を撮影していた福井ケーブルテレビのカメラマンから映像の提供を受け、全国ニュースで大きく報道された。撮影したカメラマンはf t bで技術研修を受けた経験を持ち、その縁から真っ先に光野氏に連絡を入れ、映像を提供してくれた。

この事故の報道を通じて、「人を繋ぐ縁とテレビが持つ映像の力を改めて感じた」という。

TPOに合わせる意識を持って

アナウンサー時代から季節や場面に合わせた着こなしには気を遣ってきたという光野さん。特徴的なネクタイには特に目が無く、友人などに譲った分も含めると、買い求めたネクタイは百本以上に上る。出張の際も、お目当ては地元百貨店のネクタイ売り場だとか。お気に入りの店は福井市中央の「アティックヨコヤマ」ご主人の助言も受けながら、場面に合わせた自身なりの着こなし術を身に付けてきたという。「これからもTPOに合わせてコーディネートを楽しみたい」と目を細める。

各々の良さを活かして 創り上げる魅力

休日には幼い頃から親しむソフトボールで、入社から約50年にわたりピッチャーとして活躍。社内対抗戦や市民ソフトボール、シニアの大会など、仕事の合間を縫いながら球友と親交を深めてきた。「打者との駆け引きがたまらない」と力を込める光野さん。決して速球派ではないと謙遜しつつ、コーナーを突き、緩急をつけて打者を打ち取るところに面白さを感じるという。また、試合後に球友と賑やかに振

り返る反省会もチームスポーツの魅力と語る。

一方で、コロナ以降は生け花の魅力に惹かれているという光野さん。会社近くの「喜ね舎」で見つけてきた生花を、自宅や会長室に生けている。指南を受けたわけではなく、季節や花の色合い、風情に合わせて自身の感性で生けている。「各々の花の良さを活かしながら、組み合わせる」プロセスは、会社経営にも共通するという。「良さを見つけてバランスを考慮しつつ組み合わせ、大きな力を発揮できる組織づくりに努めていきたい」と柔和な笑顔で締め括っていた。



生け花には各々の良さを活かす点で会社経営と共通することが多いという